



	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
8月	710	562	600	13	11	1,896	842	50	186	151	144	495	3,764
累計	3,541	2,404	2,247	160	26	8,378	5,817	242	930	774	655	2,344	19,140

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

- 288.1 『流転の海 第一部』(宮本輝／著 新潮社 1990)のp.18に「敗戦までは、名前の下に〈仁〉という字をつけてはならないきまりになっていた。〈仁〉という字は皇室の人間しか使えなかったのである。」という記述があるが、このような事実があったか記載のある文献等を知りたい。

『名前の^{タフ}禁忌習俗』(豊田国夫／[著] 講談社 1988)で天皇の名前の規制についての記述を確認。p.81に「古代では、まず、漢字対象の禁忌令が出された。天平年間、先述の君字とか、天皇名との同字使用などが、その事例である。歴代天皇の仁の字をさけ、^{くにひと}国人をクニタミ。^{よひと}世人・^{さとひと}里人をヨビト・サトビトと濁音に読ませたなどの故実がある。」と記載されている。p.192に「仁明は、天長一〇年(八三三)の禁忌の詔勅『天下諸国人民の、姓名及び郡郷山川等の号に、諱に触る者あれば、皆改易せしむ』の天皇である。」との記述があった。また、p.256-257に「明治維新の記録によれば、以上の欠画避諱の制令は、次第にゆるやかなものになり、やがて消滅して行く。『憲法類編』明治元年(一八六八)一〇月九日附の太政官布告には、恵※(仁孝御名字)統※(孝明御名字)睦※(今上御名字)【※は欠画での記載】右の三字は御諱に付、名字等に相用ひ申間布儀は勿論、刻本等には欠画致すべく候こと。とあるが、同五年正月二七日の第二四号布告では、御名陸字、自今欠画に及ばず候事。但し、恵・統の二字は同様となすべきのこと。となり、『法令全書』第一一八号、六年三月二八日の布告では、ついに、御歴代御諱、并に御名の文字は、自今、人民一般相名乗候儀、憚るに及ばざること。但し、熟字のまま相用ひ候儀は、相成らず候こと。として、人民の世となり、欠画令の解除が避諱に及んだ。」との記載があった。

以上の様に、古代においては「仁」の文字をそのまま発音することは禁忌とされていたようだが、戦前まで「仁」という文字を名前の下につけることについて規制があったのかは確認ができなかった。戦前の一時期において、天皇の名前の一部である「恵」、「統」、「睦」や、天皇の名前の熟字のまま使うことが禁じられたが、それ以外の文字は使ってもよいという布告があった。

- 767.7 唄い出しが、①「みかんのはながさいてます」、②「うみはあらうみむこうはさどよ」という曲の背景と作詞者を知りたい。

『童謡名曲事典』(長田暁二／著 全音楽譜出版社 2020)に唄い出しによる曲目索引あり。

①はp.522-525に「みかんの花咲く丘」加藤省吾作詞とあり。(唄い出しは、正しくは「みかんののはながさいている」。)曲の背景として、明治21年、NHKのラジオ放送で東京と静岡県伊東市とを結ぶ二元放送の前日に、作曲者の海沼實が「川田正子の歌で静岡に相応しい童謡を」という依頼を受けた。そこで静岡県出身で大ヒットを手掛けている童謡作詞家の加藤に、伊東に相応しいみかんや丘の上から見た海や船などを入れてほしいと注文し、20分ばかりで詞を完

成させたという記述あり。同様の経緯が、『「みかんの花咲く丘」わが人生』（加藤省吾／著 1989 芸術現代社）p.13-32、『みかんの花咲く丘 川田正子--歌とその時代』（恋塚稔／著 東京書籍 1984）p.164-180 にも記されている。

②は p.326-329 に「砂山」北原白秋作詞とあり。曲の背景として、大正 11 年に北原白秋が講演で新潟市を訪れた際、小学生による歓迎童謡音楽会が催され、この席で、子ども達に新潟をテーマにした童謡を作る約束をした。音楽会の後、学校の先生達と浜を散歩し、荒海を眺めながら詩想を練ったという記述あり。同様の経緯が、『白秋全集 第 18 巻 童謡論集』（北原白秋／著 アルス 1930）p.442-445 にも記されている。

- 809.4 欧米の小説や映画では、パーティや催しもので作家が自作を披露したり、一般人でも有名な詩や物語などを家で朗読する描写があるが、欧米の朗読の文化についての本はあるか。

『読書の歴史 あるいは読者の歴史』（アルベルト・マンゲル／著 柏書房 1999）p.271-284 「朗読者としての作者」の項には、古代ローマやギリシア時代の朗読会の様子や、ダンテ、チヨースー、ディケンズ等の著者による朗読会についての記述がある。また、「一九世紀にはいると、ヨーロッパ全土にわたって、作者による朗読は黄金期をむかえる」との記述がある。

また、『声の文化史 音声読書としての朗読』（原良枝／著 成文堂 2016）に、「ヨーロッパにおける自作朗読会」という項目がある。この本は市川市未所蔵だが、元となる博士論文「音声読書としての朗読研究：その文化的側面と可能性」は早稲田大学リポジトリ（<https://waseda.repo.nii.ac.jp/records/16556> 2023.9.30 確認）から、本文を閲覧できる。p.43-47「ヨーロッパにおける文化としての朗読環境」の中に、作者による自作朗読会の様子に加え、「15 世紀頃から宮廷や庶民の家でも家族や友人たちへの教育や娯楽として朗読が行われ、女性たちが興味ある話題の文章を朗読し、論評していく朗読会も開かれた。」「人々が適宜集まり形式にとられず自由に朗読会を行う習慣は 17 世紀に一般化していったのである。」という記述がある。

他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類

質問

⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など

- 490.9 中国医学の黄帝内経こうていだいけいに関連する本はあるか⇒『黄帝内経古注選集 第 1 冊～第 6 冊』（オリエント出版社 1985）は本文が中国語。『世界の名著 続 1 中国の科学』（中央公論社 1975）p.359-439 に「黄帝内経素問」の日本語訳収録。
- 589.7 テレビゲームの歴史について調べたい⇒『ファミコンとその時代』（上村雅之、細井浩一、中村彰憲／著 NTT 出版 2013）、『日本を変えた 10 大ゲーム機』（多根清史／著 ソフトバンククリエイティブ 2008）を紹介。
- 648.2 大豆などを使った代用肉について、中学生がわかる資料はないか⇒『どうなるの？未来の食べもの 1 最新のフードテックの世界に潜入!』（清水洋美／著 汐文社 2023）、『よくわかる最新代替肉の基本と仕組み』（齋藤勝裕／著 秀和システム 2022）を紹介。
- 767.8 デュエット曲（日本のポップス、歌謡曲）の楽譜が載っている本はあるか⇒『歌謡曲のすべて 上・下』（全音楽譜出版社 2002,2005）のうち、目次の★印がデュエット曲。
- 810.7 日本語ボランティアをやりたいが、役に立つ本はないか⇒『必携!日本語ボランティアの基礎知識』（中井延美／著 大修館書店 2018）を紹介。また、市川市国際交流協会日本語ボランティアの養成講座などを開催していることも案内。
- コ 909 『いやいやえん』に関する浅野俊和氏の論文が読みたい⇒『日本児童文学文献目録 2000-2019』（日外アソシエーツ 2019）p.460 より、雑誌『児童文学論叢 2007 年 3 月号』に「1960 年代の幼年文学に見る保育観・保育思想—『いやいやえん』と『ロボットカミイ』を中心に」が掲載されていることが分かる。国立国会図書館で所蔵している。
- K450 季節の移り変わりについて小学校低学年が理解できる本はあるか⇒『あさよる、なつふゆちきゅうはまわる 地球のはなし』（かこさとし／絵と文 農山漁村文化協会 2022）を紹介。